

『市民』のイメージ」では「自分の意見をもって自分たちの生活を作り守る」ことが市民の条件であると指摘していた。選挙権は市民の権利であるとともに義務でもあるといえよう。しかし若年層の投票率は低い。「自分は関係ない」「政治に興味はない」「自分の一票だけでは変わらない」「誰かがやってくれる」といった意識があるからだろう。これはまさしく『』である『』ことと『』すること』に示されている、自由が失われる危険、国民が主権者でなくなってしまう危険につながっていくの言うまでもない。政治に関わる行為はさまざまあるが、投票は誰もが行使できる権利である。だからこそ「自由を市民が日々行使する」ためにも投票という権利を行使する必要がある。